

もしもガイアメモリが
一回使用するごとに電
池を交換しなければい
けなかったら

世界の抹消者

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

なんとなく思い付いた一発ネタ。

続かないよ！

目次

もしもガイアメモリが一回使用すること
に電池を交換しなければいけないかったら

1

もしもガイアメモリが一回使用するごとに電池を交換しななければいけなかったら

ここは風の町、風都。

鳴海探偵事務所の探偵、左翔太郎とその相棒フィリップの2人は仮面ライダーWとして町を脅かすドーパントと戦っていた。

「チツ！コイツ随分とパワフルだな！」

『バイソンと言うだけあってパワーは向こうの方が上だ。翔太郎、ヒートメタルにチェンジだ！』

「えっ、……えく……」

『どうしたんだい翔太郎？』

「なあフィリップ、いつも思うんだが……」

『なんだい？』

「なんでこれ一回使う度に電池交換しなきゃいけないんだよ!？」

『え、その事かい?』

「逆にそれしかねえよ!なんで仮面ライダーが戦いに行く度に電池とプラスドライバーを持参するんだよ!？」

『何を言ってるんだ翔太郎。それほどの強大な力がたった電池2つで使用出来るんだよ?・お得じゃないか』

「お前の言う事も一理あるけどさあ…」

「ブモオオオオオオ!」

『翔太郎!そんな話をしてる場合じゃない!早くメモリをヒートメタルに変えるんだよ!』

「ああもう分かったよ!」

【HEAT】

【METAL】

【HEAT METAL】

Wの姿が緑と黒から赤と銀に変わり、背中にメタルシャツが出現する。

バイソンドーパントが突進してくるが、メタルシャフトで受け止める。

「オラ！」

「ブモ!?!」

「おりやあああああ！」

「ブモオオオ！」

そのままメタルシャフトを何度もバイソンドーパントに打ち付ける、が…

「ブモオオオオオオオオオ！」

「うお!?!」

「ブモオオオオオ！」

「うわあ！」

バイソンドーパントがメタルシャフトを弾き飛ばし、Wを突き飛ばす。

「くっ、やべえな」

『翔太郎、距離をとったままナトリガーで射撃だ！』

「え、いやもういいわ。分かった」

【LUNA】

【TRIGGER】

【LUNA TRIGGER】

Wの身体が黄色と青に変わり、手元にトリガーマグナムが出現する。

「これでもくらえー！」

「ブモオ!？」

連続でトリガーの弾をくらい怯むバイソンドーパント。

「よし、メモリブレイクだ」

『翔太郎、トリガーメモリの電池を入れ替えるんだ』

「おう。…なんかこれだけは慣れねえんだよなあ」

Wが何処からともなくプラスドライバーを取り出し、ダブルドライバーからトリガーメモリを外しプラスドライバーでメモリのネジを取り始める。

「ブモオオオオオオ！」

そんな事をしている間にバイソンドーパントがWに突進してくる。

「危ねー！」

「ブモオー！」

Wが攻撃できない事をいいことにWに何度も突進を仕掛けてくる。

そして逃げてる間にトリガーメモリの電池交換が終わった。

「よし、これで決まりだ」

【TRIGGER MAXIMUM DRIVE】

トリガーマグナムにトリガーメモリを入れる。

『トリガーフルバースト!』

「ブモオオオオオ!」

Wのトリガーフルバーストが直撃し、バイソンドーパントは元の人間の姿に戻りバイソンメモリは砕かれていた。

「これで事件解決だな、相棒」

「さて、メモリの電池交換をするか」

「翔太郎、電池が無くなってしまった、買ってきてくれ」

「はいはい」

(戦闘に不便とか言ってたけど、何よりのデメリットは…)

「これください」

「はい、合計で913円です」

「電池代で俺の財布がガリガリ削れる事だよなあ。トホホ…」